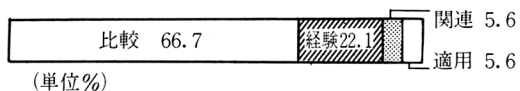


全体の半数以上の66.7%の者が、比較思考をしていた。

次いで、経験、関連、適用思考が一部にみられ、調査8より9になるにつれて、下記のように経験思考から比較思考へ移行していくのがわかる。



ただ、思考のプロセスを知ろうとした点は、結果の記録からの判断で、プロセスはかくされているようで、あまり期待した結果は得られなかった。

また、比較思考は、2つ以上のものを比較して名づけているものと判断し、関連思考は、1つと関連させて名づけたと推定されたものである。しかし、文章から明確な判断のでない点は、付記しておきたい。

〈調査問題10〉

10 せんたくをする順序にしたがって□の中に数字で書きいれましょう。

1.身じたく 2.あとしまつをする 3.下洗い
4.しぼる 5.用具の準備 6.ほす 7.すすぐ
8.洗たくの重さをはかる 9.よごれを調べる
10.本洗い

□→□→□→□→□→□→□→□→□→□

洗たくをする順に記号で□に入れさせてみた。答は、2～3のいれ方が予想されるが、科学的な原理・原則を含めた意味的知的理解力を知るために、また子どもたちの学習の抵抗を見極め、意欲的に学習にとりくませる意図で、上記の調査を加味してみた。

——調査問題10の集計——

学年	%	正答	誤答
5年		55.7	44.3
6年		53.2	46.8

正答は、**1**→**5**→**9**
→**8**→**3**→**10**→**7**→**4**
→**6**→**2**と考へてみた
が、**1**→**5**を**5**→**1**と

し、**9**→**8**を**8**→**9**としたのも許容し正解とみなした。5年と6年の正答率は、学年が進むにつれて誤

答が多くなるのは、経験度合いが少ない、意識が家庭生活の分野までむかない、無関心による洗たく意欲がでない、学習中心主義により家庭の問題は、親まかせの習慣、手伝い軽視の社会風潮、学年による心身発達の違い……等が考えられ、学年段階をふまえた指導と、家事手伝いの分担・共同化がなされていない現状でないかと反省させられた。

4 食物・すまい・家庭領域に関する調査問題

他領域(食物・すまい・家庭)までは、調査する必要がないとも考えられるが、参考までに食物領域2、すまい領域2、家庭領域1と5問題を予想してみた。家庭領域の調査は、前年度の調査で実施済みのももあるので、ここでは1つとした。

以下、紙面の都合で、1～2の問題について述べることにする。

食物問題——①台所の配置のしかたで流し、調理台、こんろ台、配ぜん台などがどのように並ぶか。
②みそ汁のつくり方手順で、だしのいれかた、材料と味噌のいれかた順序など

すまいの問題——①へやのそうじの順序についてどうするのがよいのか。

② 勉強機の並べかたと照明のしかた

家庭の問題——①お客さまがいらっしゃった場合のお茶のつぎかたは、どうするのがよいのか。

——調査問題——

1 台所の配置のしかたで、仕事の順に並べられているのはどれでしょうか。(1)～(5)のうち、どれですか。

- ① 流 し 調理台 こんろ台 配ぜん台
- ② 流 し 配ぜん台 こんろ台 調理台
- ③ 配ぜん台 流 し こんろ台 調理台
- ④ 流 し 調理台 配ぜん台 こんろ台
- ⑤ 流 し こんろ台 配ぜん台 調理台

こたえ